

第4回

マイノリティの情報保障 — 性的少数者を例として —

日時：2019年2月9日（土）15:00～17:00

場所：ジェンダー・リサーチ・ライブラリ
2階レクチャールーム

講師：小澤かおる
首都大学東京人文科学研究科客員研究員



社会人から40代後半に大学院に戻り、現在は大学の非常勤講師として活動中。性的少数者を端緒に、差別、マジョリティについて興味を持っています。

*当日の講演概要は裏面をご覧ください。

*学外の方にもご参加いただけます。参加を希望される方は、事前に以下アドレス宛てお知らせください。

場 所

名古屋大学ジェンダー・リサーチ・ライブラリ
2階レクチャールーム

対 象

名古屋大学構成員

参加方法

当日の飛び入り参加も歓迎しますが、資料等の準備のため、参加予定の方はこちらまで事前にお知らせください。

gri@adm.nagoya-u.ac.jp

お問い合わせ

名古屋大学ジェンダー・リサーチ・ライブラリ
gri@adm.nagoya-u.ac.jp



LGBTとセクシュアリティから ジェンダーを考える

2018年度 GRL連続セミナー

「LGBTとセクシュアリティからジェンダーを考える」

第4回

マイノリティの情報保障 — 性的少数者を例として —

講師：小澤かおる 首都大学東京人文科学研究科客員研究員

講演概要

性的少数者とは、性自認や性的指向などがマジョリティとずれがある人々の総称である。昨今はLGBTという略称が総称として使われることもあるが、実はLGBTは性的少数者のすべてを表すわけではない。

性的少数者は、民族マイノリティなどほかのマイノリティと異なり、多くの場合マジョリティの家庭に生まれる。差別や偏見があることから、例えば難病の障害者などとも異なり、当事者がマイノリティであることを認識し、情報を探すことが困難な場合がある。

そこで必要なのが、情報保障である。情報保障ということばは、多くの場合障害者や外国語話者などに情報を翻訳して支援する技術的なことを指し、昨今はIoT技術の援用などの脈絡で知られる。しかしここでは、社会がマイノリティに対して、必要な情報をストックして提供し、支援することとする。

性的少数者は、孤立と不安という困難を抱えている。ときには家庭内でも孤立し、コミュニティにアクセスするまでは、似たような属性の人と出会えずに生育する。差別や偏見があるため、いじめに遭ったり、かくしている場合は露見を恐れたりして不安のうちに過ごす。

こうした困難を解決して、自分の人生を自己決定するためには、マジョリティの情報だけではなく、当該マイノリティの情報が必要になる。マイノリティの情報は、普通ではないものとして隠されたり、捨てられたり、情報過多の世の中にあってはマジョリティの情報にうずもれたりしている。

このため、必要な情報にアクセスを行なうことと、そうした情報をストックして提供できるようにすることが求められる。これが情報保障であって、これはマイノリティだけではなく、マジョリティにも役立つことである。

情報保障のためには、図書館や当事者の関与したライブラリ、アーカイブズなどが必要である。当事者によるライブラリはすでに存在するが、アーカイブズについては専門に行なうところはまだない。

社会の責任において、性的少数者をはじめとするマイノリティの情報保障が行なわれ、当事者が不必要な軋轢なく社会生活を営むことが可能になることが望まれる。